衣料管理情報

天然皮革の色泣き

天然皮革は、ブランドロゴが入ったパッチや肘当て、衿裏などに部分使いされていることがあります。今回は、表面には見えない部分に使用した天然皮革から色泣きが生じた事例を紹介します。

監修／クリーニング綜合研究所

素材特性に注意

衣類の状態

着用しようとしたら、ボタンの周囲がうす黒くなっているのに気が付き、持ち込まれたもの。

原因

ドットボタンの補強に用いられていた天然皮革の染色が不堅ろうであったため、ドライクリーニングによって染料が溶け出して生地を汚染したもの。

取扱表示では、水洗いを禁止して、ドライクリーニングを可としているが、染色状態をチェックした結果では、水と石油系溶剤のいずれに対しても堅ろう性がなく、染料が溶出することが確認できる。

事故の防止対策

メーカーは、染色の不堅ろうな天然皮革の使用を避けること。

クリーニングにおける対応として、染色した天然皮革を組み合わせた製品については、水洗い、ドライのいずれにおいても染料が溶け出すことを前提に、使用する洗剤や溶剤に対する染色の堅ろう度をチェックする。堅ろう性に問題がある場合には利用者にその旨を伝え、処理を断るなど適正に対応すること。

当該品のラベルには、仔羊との表記はあるが、使用されている部位については縫目を解かなければ確認できない。

天然皮革の染色

天然皮革の染色が堅ろう性に欠け、クリーニングで色泣きなどの問題が生じるのは、染色工程に次のような要因があるため。

①衣類などに使用する天然皮革には、内部まで均一に染色する必要があることから拡散性の高い染料が用いられる。しかし、拡散性の高い染料は天然皮革との親和性が低いために、十分な堅ろう度を確保できない傾向にある。

②天然皮革製品は、風合いを重視するために高温染色が実用化されていない。クロムなめしなどにより高温に耐える天然皮革もあるが、こうした天然皮革であっても高温での染色は風合いを悪くする。

③繊維製品のように染色後に余分な染料を洗い落とす工程（ソーピング）を十分に行えないことがある。

このほかにも、天然皮革製品は、個体や裁断する部位の異なる天然皮革を集めて一着の縫製品とするため、クリーニング前には目立たない品質の違いなどが、クリーニングすることで色や風合の変化となって表れてくることがある。

ボタンの周囲が黒くなったコート

「仔羊」の表記

組成表示と取扱表示

ボタンの周囲が黒くなっている

ボタンの補強材として内部に黒色の皮革が用いられている

● 「衣料管理情報」は全クリ連ホームページからPDF をダウンロードいただけます。
全クリ連 HP　https://www.zenkuren.or.jp
「お知らせ」→「衣料管理情報」

全国クリーニング生活衛生同業組合連合会制作
機関誌「クリーニングニュース」より